

放課後子どもプラン県中地区研修会

子ども、保護者、学校、地域を元気にする連携のあり方

開催報告

8月11日(日)、郡山市労働福祉会館を会場として、放課後子どもプラン県中地区研修会を開催いたしました。放課後子ども教室関係者を始め、児童クラブ関係者、学校関係者、行政担当者、そしてボランティアに関心のある方々等、総勢43名が出席した研修会となりました。

午前中は、「発達障がいを抱えた子どもへの効果的な支援」に関する講演と情報交換、午後は、「子ども、保護者、学校、地域を元気にする連携のあり方」と題した講演と会津坂下町金上地区の実践事例発表、並びにスキルアップに繋がる演習を実施しました。

参加者からは、「今後の参考となる講演や演習が多く、大変勉強になった。」「普段悩んでいることなどを話し合うことができ、いろいろと工夫している事なども知ることができたので、早速生かしていきたい。」等といった声が多く寄せられました。

以下に、研修会の様子を紹介いたします。

<講演1 発達障がいを抱えた子どもへの効果的な支援>

講師：県中教育事務所学校教育課指導主事 持館 康成

発達障がいは、脳の機能的障がいであり、性格の問題ではなく、その子の特性に合わせ、子どもの身になって考えることが大事である。相手の立場を理解し、ずれをどう埋めていくかといった具体策（集中力を高める方法・ルール設定・環境整備など）を疑似体験や演習等を取り入れながら説明しました。



<情報交換・交流会>

子どもへの効果的な支援策や保護者への連絡方法、学校や専門機関との施設面や指導面での連携、事故や病気の予防、ついて、なごやかな雰囲気のもと、活発な意見交換がなされました。



放課後子ども教室と児童クラブの相互理解も深まりました。

講演2：子ども、保護者、学校、地域を元気にする連携のあり方

講師：文教大学人間科学部 教授 金藤ふゆ子先生

放課後子ども教室の今後のよりよい運営をめざす具体策をご教授頂きました。

家庭や教育の今日的課題を踏まえ、国家としての政策、諸外国の事例、先進的地域の実践など、豊富な資料、データ、DVD等で紹介していただき、改めて本事業の重要性と今後の進むべき方向性を確認することができました。



- 自然体験の多い子どもは規範意識も高い。
- 同じ志を持つ人が集える場所が地域である。

<会津坂下町金上地区の実践例>

講師：金上コミュニティセンター事務局長 佐藤房枝先生

年度当初に保護者を対象とした説明会を実施し、理解と協力を仰いでいること。分かりやすいテーマを設け実践し、子どもたちの豊かな人間性の育成に止まらず、大人同士の交流や学校との連携が深まり、地域の活性化に繋がっている素晴らしい成功例でした。

(6つのテーマ)

- ・安心・安全な居場所
- ・世代を超えた交流
- ・地域の人が先生
- ・学校と良い関係
- ・地域を生かした体験活動
- ・ボランティアってカッコいい



<スキルアップ演習 講師：会津坂下町放課後子どもプラン運営委員長 樋口 裕子先生>

子どもたちを話に注目させる拍手の方法や気持ちを和らげる身体表現など、わずかの工夫でのびのびと楽しく活動できる方法を教えて頂きました。

また、折り紙を使って作れる、ちょっとした優しい送り物なども紹介して頂きました。

